

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32520

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01857

研究課題名（和文）Transnational Entrepreneurship: Japanese Diaspora Entrepreneurs in Latin America

研究課題名（英文）Transnational Entrepreneurship: Japanese Diaspora Entrepreneurs in Latin America

研究代表者

バーチュリ セーラ (Birchley, Sarah Louisa)

東洋学園大学・現代経営学部・教授

研究者番号：50508562

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本調査研究は日本人トランスナショナル起業家（一世）および日系人起業家が中南米諸国、特にブラジル、メキシコで働く背景、事業分野、成功要因等の分析を行い、日本が中南米在住の起業家との連携や活用の可能性を探る探索的研究である。調査は時間的・資金的制約から2023年にブラジルで21名、メキシコで13名の起業家に対し半構造的インタビュー調査を実施した。静岡県、群馬県、沖縄県在住の日系人起業家13名に同内容のインタビュー調査を実施した。本研究は2024年6月現在、ブラジル、メキシコ、および日本に居住する3グループの起業家間の比較分析を行っている。研究成果を2025年に英語、日本語にて出版する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究に先立ち行われた東南アジア6ヶ国で起業している日本人起業家研究から、日本人起業家は日本企業のアウトソーシングや日本企業との関連で事業展開をしていることが事例研究から明らかになった。本研究は、中南米諸国、特にブラジル、メキシコでの事例研究を通じ、機会認知、イノベーション、起業家精神研究から、トランスナショナル起業家（一世）および日系人起業家の連携や活用の可能性について示唆を与える。

研究成果の概要（英文）：This exploratory study analyses the backgrounds of Japanese and Nikkei entrepreneurs working abroad, their business fields and success factors, and raises the possibility of Japan's future collaboration with entrepreneurs living in Latin America. Due to time and financial constraints, a semi-structured questionnaire survey was conducted in 2023 on 21 people in Brazil and 13 people in Mexico. In addition, the same questionnaire was administered in Japan to 13 entrepreneurs of Japanese descent living in Shizuoka, Gunma and Okinawa prefectures. The study is currently conducting a comparative analysis of Japanese and Nikkei entrepreneurs living in Brazil, Mexico and Japan, and the research results will be published in English and Japanese in 2024 after the analysis is completed.

研究分野：Diaspora Entrepreneurship

キーワード：Diaspora Transnational Entrepreneurship Nikkei Japan Mexico Brazil Expatriate

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本探索研究は東南アジア諸国で活躍する日本人起業家の研究 (JSPS 2017-2019 科研費 (C) 17K03948) を完了させた後に、研究地域をラテンアメリカ (ブラジル、メキシコ) に広げ、研究対象者を日本人トランスナショナル起業家 (一世) および日系人起業家に拡大し研究を行うものである。

前研究から東南アジア諸国で日本人が起業している企業の主な顧客は日本企業や日本人を対象にし、地元市場を対象とした事業を展開している企業は少なかった。

東南アジアでの研究成果を踏まえ、本調査研究は、日本の反対側に位置する中南米で起業している日本人トランスナショナル起業家 (一世) および日系人起業家の事業分野、成功要因等を分析し、将来の日本と中南米間に見込まれる潜在的な事業分野、投資機会等の可能性を探索する。

2. 研究の目的

明治以降、日本人はハワイで移民として働いたのち、米国、ペルー、メキシコ、ブラジル、その他の中南米地域に働き場を求めた。日本政府が国策として日本人家族を農業移民としてブラジルに送り、現在ブラジルの日系人人口は 200 万人に及ぶ。本研究は時間的、資金上の制約があり。調査の対象地域をブラジルとメキシコに限定した。

本研究は移民の起業活動が次の 3 つの要因により影響を受けるという仮説に基づいている：

- 制度的包摂性 (研究対象者が居住し、企業活動を行う国・地域の法律・市場等)
- 社会的包摂性 (社会的ネットワークや人脈)
- 人的資本 (家族背景、教育レベル、技能、人生経験)

本研究では、Transnational Mixed Embeddedness (Bagwell, 2018) として知られている理論的枠組みを使用し、異なる分析レベル (embeddedness in the context; embeddedness in social networks; individual characteristics) を組み合わせることで、出身国と現在調査対象者が定住している国へ研究の焦点を拡大しようとしている。加えて、Granovetter ら (1985) が指摘するように、経済取引は、その形態と結果を形成する様々な社会的構成要素から影響を受ける。非経済的・制度的要因が起業家精神を決定することも多い。起業家精神は「構造的」なものと「関係的」なものに分かれる。「構造的」とは、起業家を取り巻く広範な環境と政治的・経済的構造を指し、「関係的」とは、文化、互惠性、社会的関与といった観点から、行為者間の個人的関係の役割を指す。本研究は社会構成主義的なアプローチで起業家精神に関する研究を行い、移住という特定の社会的背景の中で、起業家精神という現象が、相互作用、意味づけ、解釈を通じてどのように社会的に構成されているかを探求する。

本研究対象者はブラジル、メキシコで企業活動を行う日本人・日系人起業家であり、次の 5 種類に分類した。

- 日本人トランスナショナル起業家 (一世): 日本以外の国で起業した日本人
- 準二世日系人起業家: 6 歳・7 歳 ~ 15 歳・16 歳の時にブラジルにのみ存在する。家族に帯同しブラジルに移住し、日本・ポルトガルの正規学校教育を完了しなかった者で家族移民のブラジルの場合のみに存在する (佐藤、1984:9)
- 日系二世起業家: 両親の中南米への移民・移住後、現地で生まれ現地の教育を受けのちに現地で起業した者。このカテゴリーは両親の内少なくとも一人が日本人である。
- 日系三世起業家: 祖父母の両方、あるいは一方が日本人で、現地で教育を受け、現地で起業

している者。

- 日系四世起業家：祖父母の中南米へ移民・移住後、現地で生まれ日系三世の下で生まれ、現地の教育を受け、現地で起業した者。このカテゴリーは祖父母の少なくとも一人が日本人である。

日本国内には、母国日本に出稼ぎ目的で来日した後、日本国内に定住している日系人起業家がいる。調査研究者は2021年に静岡県、群馬県、沖縄県を訪問し、現地の日系人起業家にブラジル、メキシコで行ったのとはほぼ同じ内容の半構造化質問紙調査を行った。

さらに、本研究はブラジル、メキシコ、日本の3地域で行った起業家のデータセットを比較し、調査対象者群の社会包摂性の度合いと、社会包摂性が事業活動にどのように影響を及ぼしているかの比較分析をする。分析を通し、トランスナショナル起業家、日系人起業家の特徴を明らかにした後、現地ブラジル、メキシコ並びに国内の事業活動に日本人トランスナショナル起業家、日系人起業家との連携・活用に関する提案を行う予定である。

3. 研究の方法

コロナ禍の下、海外での調査研究を実施することはできなかったことから、2021年に国内でインタビュー調査を行った。インタビュー内容は半構造化した質問に答えてもらう形式をとった。インタビューは静岡県で3名、群馬県で4名、沖縄県で7名、合計13名の日系人起業家に対して実施された。インタビューは一人につき1.5~2時間、半構造化された質問に回答してもらう形式で行った。使用言語は日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語の混合であった。インタビューは日本語と英語で文字起こしを行い、調査協力者に内容確認を行い、全員から確認と活字掲載の承諾を得た。2023年2月~3月にブラジルとメキシコを訪問し、ブラジル・サンパウロ市では21名の起業家（日本人トランスナショナル起業家（一世）12名、日系人起業家9名）、メキシコでは13名の起業家（日本人トランスナショナル起業家（一世）7名、日系人起業家6名）に対して同様のインタビューを行った。これらのインタビューの日本語と英語での文字起こしを行った後、調査協力者に内容確認を行い、全員から確認と活字掲載の承諾を得た。最終的に47名の日本人トランスナショナル起業家（一世）および日系人起業家からのデータセットを入手することができた。

2024年6月現在、47名のデータのコーディングと分析を行っている。

4. 研究成果

本研究はCOVID-19の大流行によって顕著な影響を受け、研究計画が大幅に遅れた。残念ながら2024年の最終報告書を提出する段階で、明確な研究成果を公表する段階には達していない。現在は、収集したデータセットから起業家の属性、移住の動機、起業理由、事業業種、開業資金とその入手方法、自己啓発、満足度（1~5）、キャリアアンカー、メンターなどのコード化を行っている段階である。また、起業家の学歴、家庭環境、家庭と職場における言語の使用、起業動機、ネットワーク、メンター、および現在の居住国と母国への帰属意識の度合いについてもコード化・分析を進めている。上記データの分析を完了させた後、最終的に起業家の機会認知、イノベーションと創造性、ベンチャー創造へのアプローチ、そしてアイデンティティと文化理解等についての分析を行う予定である。

本研究の複雑さは、日本人トランスナショナル起業家（一世）と日系人起業家の起業家精神、アイデンティティ、居住国への帰属意識が複雑に絡み合っていることである。最終的に、本研究は中南米に居住するトランスナショナル起業家（一世）と日系人起業家に関する包括的な結論を導き、起業家精神の将来に向けた戦略的提言を予定である。本研究は、日本と中南米の関係、ベンチャー創造へ重要な示唆を与えるものであると確信している。

最後に、メキシコ在住の日系人篤志家から出版助成金を獲得しており、2025 年に英語と日本語の両方の言語で、研究成果を出版することを予定している。

注

Bagwell, S. (2018). From mixed embeddedness to transnational mixed embeddedness: An exploration of Vietnamese businesses in London. *International Journal of Entrepreneurial Behavior & Research*, 24(1), 104-120.

Granovetter, M., Action, E., & Structure, S. (1985). The problem of embeddedness. *American Journal of Sociology*, 91(3), 481-510.

斎藤広志 (1984) 『ブラジルと日本人 (Brazil and the Japanese)』サイマル出版会。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Sarah Louisa Birchley	4. 巻 31
2. 論文標題 Driving Inward Investment Through 'Connectors': An Analysis of a Pilot Program of Diaspora Engagement	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Bulletin of Toyo Gakuen University	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Sarah Louisa Birchley	4. 巻 30
2. 論文標題 Diaspora Direct Investment for Wales?: A Feasibility Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Bulletin of Toyo Gakuen University	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kazuko Yokoyama	4. 巻 10
2. 論文標題 Work Competency and Resilience of Japanese Self-Initiated Expatriate Entrepreneurs (SIEE) in Southeast Asia during COVID-19 Pandemic.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Society for Research on Working Competency	6. 最初と最後の頁 62-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Sarah Louisa Birchley and Kazuko Yokoyama	4. 巻 16
2. 論文標題 Mixed Embeddedness of South American-Diaspora Ethnic Entrepreneurs in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the 16th European Conference on Innovation and Entrepreneurship ECIE 2021	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sarah Louisa Birchley	4. 巻 30
2. 論文標題 Diaspora Direct Investment for Wales ? : A Feasibility Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bulletin of Toyo Gakuen University	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

[学会発表] 計12件 (うち招待講演 12件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley & Kazuko Yokoyama
2. 発表標題 Labour Market Integration and Adaptation Strategies of Latin American Immigrants in Japan.
3. 学会等名 Migrating World: Interdisciplinary Approaches to Migration and Integration (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley
2. 発表標題 The Role of Technology in Transmitting and Maintaining Welsh Diaspora Identity
3. 学会等名 Symposium on "The Transmission and Maintenance of Diaspora Identity Through time and Generation" ATINER 2022, Athens, Greece (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuko Yokoyama
2. 発表標題 Work Competency and Resilience of Japanese Self-Initiated Expatriate Entrepreneurs (SIEE) in Southeast Asia during COVID-19 Pandemic.
3. 学会等名 (Society for Research on Working Competency) 10th Annual Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley
2. 発表標題 MyMentor/FyMentor: Diaspora Mentoring for Small Business Development and Economic Growth in Wales
3. 学会等名 Institute of Small Business and Entrepreneurship (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley
2. 発表標題 Diaspora Networks and Entrepreneurship
3. 学会等名 Scottish Business Network (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley
2. 発表標題 Potential Diaspora Direct Investment in Wales
3. 学会等名 The Migration Conference London 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley and Kazuko Yokoyama
2. 発表標題 Mixed Embeddedness of South American-Diaspora Ethnic Entrepreneurs in Japan
3. 学会等名 ECIE 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley
2. 発表標題 Diaspora Direct Investment for Wales
3. 学会等名 Wales Tech Week (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley
2. 発表標題 Sharing Research and Insights on Diaspora Entrepreneurship
3. 学会等名 Scottish Business Network (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley
2. 発表標題 Does Wales need a Diaspora Tech Fund?
3. 学会等名 Wales Tech Week (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley
2. 発表標題 Potential Diaspora Direct Investment
3. 学会等名 The Migration Conference 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sarah Louisa Birchley & Kazuko Yokoyama
2. 発表標題 Mixed Embeddedness of South American-Diaspora Ethnic Entrepreneurs in Japan
3. 学会等名 16th European Conference on Innovation and Entrepreneurship (ECIE21) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 横山和子 Sarah Louisa Birchley	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Bunshindo	5. 総ページ数 151
3. 書名 東南アジアで起業する ケースから学ぶキャリア開発	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Japanese Working Overseas https://japaneseworkingoverseas.com/ Japanese Working Overseas https://japaneseworkingoverseas.com/ Japanese Working Overseas https://www.japaneseworkingoverseas.com/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	横山 和子 (Yokoyama Kazuko) (50230660)	東洋学園大学・現代経営学部・兼任講師 (32520)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------